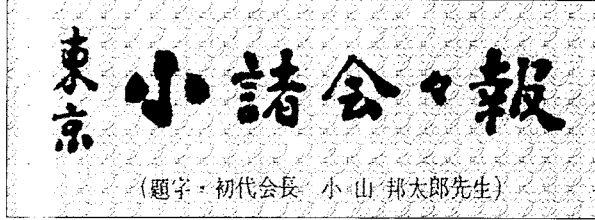


〔東京小諸会信条〕  
本会は、東京都及びその周辺に在住する小諸市出身者とその関係者をもって組織し、会員相互の親睦を厚くし、その向上と郷土の発展並びに社会文化に貢献する。



第36号  
発行日 平成24年11月17日  
編集・発行 東京小諸会

〒184-0014  
東京都小金井市貫井南町1-4-14  
小山洋之介気付  
東京小諸会実行委員会

# 平成二十四年度 東京小諸会総会・懇親会を迎えて

東京小諸会 会長 小山 洋之介

会員の皆様、ご多用のなか東京小諸会総会・懇親会にご参加くださり誠に有難うございました。今年も小諸市からは柳田剛彦市長はじめ、山岸喜昭長野県議会議員様、別府福雄市議会議長様、香坂勝商工会議所会頭様、大西崇弘観光協会会長様並びに関係の皆様方大勢の方々にご参会頂き厚く御礼申し上げます。

五十周年にあたり先人に学ぶ

東京小諸会は昭和三十八(一九六三)年、時の参議院議員小山邦太郎氏の発案で、東京及びその周辺に在住する、

小諸の出身者とその関係者の親睦を深めることを目的として設立されました。爾来、歴代の役員の方々をはじめ多くの先輩方のご尽力により今年五十年目の節目を迎えました。

実は、今年の初め、今から百十六年前、福沢諭吉翁が、長野の善光寺をはじめ佐久小諸にも立ち寄られたという資料に出会いました。早速、小諸図書館で調べたところ、明治三十年に発行された「小諸郷友會報告二十五号」に掲載された「福澤翁の来遊」でした。

その中身は後述するとして、小諸郷友會が何たるかをご紹介し、五十年の節

目の年に皆さんとご一緒に、先人に学びたいと思います。

小諸郷友會は、明治二十四年に創立されました。明治時代の文語体で書かれた創立主旨を要約しますと。

『明治維新以来、百般の物事は全くその趣を変え、学は郷土で学び、文に武に農に商に工芸にと夫々好むものを選んで新しい知識や良き方法を求めながら、世運と迎合し今日に至っている。

出郷することなく郷里にとどまり、実業に政務に専念する者や或いは、その他地方に於いて文武の官教育にあたる者や、他の産業を興したり、殖財の事業にあたる者も少なくありません。これに加えて、同年輩や、或いは青年

輩の人達が東京へ遊学する者次第に多くなりました。

この様な状況を考える時、若し適当な良い方法によってお互い提携し、在京在郷の方々々と相携え心が相通じる者

かあれば、何時の日か我が故郷小諸の繁栄必ず来ると期待して良いのではないだろうか。凡そ人として父母を敬慕わぬ者はいない、今虎の如く吠え暴れている者、落ちぶれた者のように定まった職がなく、成功おぼつかないことを敢えて行ったりする不良行為をする浅き者などが、一旦病気になる時は必ず父母を慕うことは言うに及ばず、ごく自然の人情であり、自分が父

## 来年の東京小諸会総会・懇親会は

十月二六日(土) 如水会館二階スターホールで

来年の東京小諸会総会・懇親会は、十月二六日(土)十二時から、今年と同様、東京都千代田区二ツ橋二―一―の如水会館二階スターホールで開催することに決定いたしました。どうぞ今から予定にお入れになって、お誘い合わせ、多数ご参加下さいますようお願い申し上げます。

平成二十四年十一月十七日

東京小諸会

## 平成23年度決算報告書

自平成23年1月1日 至平成23年12月31日 (単位 円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前年度繰越金	386,624	総会関係費	977,797
会費収入	540,000	通信費・事務用品	63,370
広告収入	300,000	印刷費	131,250
祝儀収入	418,000	会費・会議費	142,170
雑収入	54	雑費	840
計	1,644,678	前年度繰越額	329,251
		計	1,644,678

上記の通り平成23年度決算を報告します。平成24年3月30日 常務理事(計) 岩崎 忠 男

以上の報告を監査したところ正確であると認めます。 監事 掛川 國雄 鈴木 裕子

### 総会・懇親会次第

- 一、会長挨拶
- 一、慶弔報告
- 一、議事
  - ① 会務報告
  - ② 会計報告
  - ③ 会計監査報告
- 一、祝辞・来賓紹介
- 一、余興 弦楽三重奏
- 一、懇親会
  - ① 県歌「信濃の国」斉唱
  - ② 鏡開き
  - ③ 乾杯
  - ④ 開宴・歓談・福引
- 一、中締め
- 一、閉会の辞

母を思い懐かしく思えば必ず自分が育った家も懐かしく思い出すでしょう。また隣人を思いその上郷里の人々を懐かしく思い出します。これは愛郷心があつて起ることであります。またこれは愛国心があるが故に萌えだす心情です。

近頃の世の中の形勢をよく観察して見ると、社会の上つ面は長足の進歩を遂げてはいるが、個々の事例をみると、可とすることが出来ないことが多々あります。

これらに思いを同じくする、我等有志の者が話し合つてみると、小諸郷友會の設立の結論を得た。

郷土を共にし風俗習慣を同じくする人、朝は同じ太陽をいただき、同じ郷土の土に生かされている先進後進の方々よ、父母隣人を懐かしく思い、郷土を同じくし懐かしく思う子達よ、国を愛し世を憂う志士の方々、仮にも自分を愛し郷土を愛する思いがあれば奮つて我が団会に入会され、戦力となり或いは心を合せて利害を共にして、進んでは郷土の利益を求め、退いては個々の利益を得ることに恐れうるたえ気を引くことのないように』と、小諸郷友會の設立主旨が記されています。

明治時代と現代では、時代環境が全く異なりますが、驚くべきことに現代のたつた今、そのまま求められる内容であります。長期の平和と豊かな物質文明を謳歌して来た我國の現代は、情報革命といわれて久しく、インターネットの利便性が急速に高ま

るなかで、自分で考える力・苦しみに耐える力・善悪を超えて正視する力など、人間の思考や社会に与える影響が懸念されています。改めて、先人に見習わなければならないことを痛感します。

#### 福澤諭吉翁の佐久小諸来遊

小諸郷友會報告二十五号に掲載された「福澤翁の来遊」は、明治二十九年十一月九・十日の両日小諸と佐久を訪れた福澤諭吉翁一行の動静を榎澤納堂氏が詳細に記述している。福澤翁は、令息一太郎氏と時事新報記者をつれて小諸出身の慶應義塾大学在学中の学生を案内役として訪れたという。

稿の羽織に白縮緬の兵児帯の旅姿で小諸駅に着かれた福澤翁は四十七歳、懐古園の茶屋酔月で休息され、暫し歓談の後、小諸義塾長の木村熊二氏をはじめ歓迎有志者と共に、人力車十数台を連ねて野沢に向かわれ、その夜六百余名の聴衆を前にして対話調の講演を一時聞された。

講演の主なテーマは、「武勇心と忍耐のある信州人の氣質」「養蚕の奨励」「教育は如何に大切か」の三項目で、最後の懇親会の席でお酒を飲みながら「杯の交換は伝染病の媒介になるから極めて危険です」等々夫々に卑近な例を引いて話されている。これらの福澤翁の発言の内容は実に興味深いので、別な機会にご紹介したいと思います。

終わりにになりましたが、今年も総会・懇

親会の開催にあたり、小諸市、信州味噌(株)、(株)三ツ和小諸そば事業部、常盤館(株)香坂建設、三和シャッター工業(株)、コミー(株)、大塚酒造(株)、能美防災(株)、

## —東京小諸会

## 平成24年度総会・懇親会にあたり—

小諸市長 柳田 剛彦

東京小諸会平成24年度総会・懇親会が、大勢の会員の皆様はもとより、ご来賓各位のご出席のもとに盛大に開催されますこと、心よりお慶びを申し上げます。

会員の皆様におかれましては、ふるさと小諸を離れ、お元気で活躍されておられますことに重ねてお慶びを申し上げますとともに、平素は、小諸市政の推進に温かいご支援・ご協力を賜り、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

さて、私は、去る4月15日に行われました市長選挙におきまして、多くの皆様のご支援を賜り、小諸市長の重責を担うこととなりました。「対話と協調」を信条に、市民の皆様の声に耳を傾け、「明るく、自由で、活気あふれる、ふるさと小諸」をめざし、全力を尽くす覚悟でございます。どうか、ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。ご承知のとおり小諸市は、現在、市の浮沈をも左右しかねない、いくつかの大きな課題に直面しております。

キッコーマン(株)、サッポロビール(株)、マンズワイン(株)、(有)エスポワール並びに本会役員有志の方々にご協賛頂きました。記して厚く御礼申し上げます。

その一つとして、平成14年に浅麓クリーンセンターが閉鎖して以来、委託等で対応をしてまいりましたがごみの焼却処理につきましては、紆余曲折はありましたものの、小諸市単独によりごみ焼却施設を建設することに帰着いたしました。今後は、平成26年度の施設完成、平成27年度の本格稼働に向け、地元菱野区の皆様と、これまで以上に緊密に連携を図りながら、より良い施設の建設を進めてまいりたいと考えております。

老朽化し、耐震強度を満たしていない市庁舎、市民会館、図書館、そして小諸厚生総合病院の再構築につきましては、今なお様々なご意見がございます。私といたしましては、市庁舎一帯は「教育・文化の発祥の地」として残したいという個人的な強い思いはありますものの、病院再構築の主体である長野県厚生連や市議会の意向等とともに、小諸厚生総合病院が小諸市のみならず浅間南麓地域の二次救急医療を担う中核医療機関として欠くことのできない存在で

あることなどを踏まえ、熟慮に熟慮を重ねた結果、小諸厚生総合病院を小諸の地から失わせてはならないという原点に立ち返り、病院の再構築を含む「コンパクトシティ」の考え方でまちづくりを進めることが、今の小諸市にとって最も望ましい選択であるとの思いに至り、市庁舎一帯での再構築を決断いたしました。

この結果、小諸学校跡地である現市庁舎一帯には、「教育・文化の発祥の地」に相応しい図書館とコミュニティスペースを中心とした複合的な施設、行政の中心であり、防災の拠点となる市庁舎、そして住民の生命を守り、安全・安心の拠点となる小諸厚生総合病院を配置することとなりました。

なお、県内で最も古いとされる市立小諸図書館は、既に10月をもって閉館しており、12月からは大手の旧泉万跡地に設置した臨時図書館で業務を行うこととなっております。また、47年間にわたり多くの皆様に親しまれてまいりました市民会館は、この11月末をもって閉館し、12月には閉館イベントを行う予定となっております。

これらの大型事業のほか、私は、小諸の歴史や伝統、文化を大切にしまちづくりを進めてまいりたいと考えております。小諸本陣や脇本陣といった多くのかけがえのない貴重な財産を、しっかりと未来に引き継いでいくことが今を生きる私たちの使命であると思っております。また、学校教育の分野では、老朽化した校舎等の施設を見

直すため、自らの目で施設の状況をつぶさに確認し、適切な改修の必要性を強く感じるところでございます。子どもたちが安心して学業に集中できるよう、計画的に施設改修を行ってまいりたいと考えております。また、言葉だけになってしまっている「梅花教育」についても、その根本精神を思い起こし、教育のレベルアップを図るべく、教育委員会とともに対策を講じてまいりたいと考えております。

子育て支援の分野では、公約に従い、この10月から医療費の無料化の範囲をこれまでの小学6年から中学3年までに引き上げました。このほか、第2子以上の保育料の引き下げも今後予定しているところでございます。

産業の分野では、生産・加工・販売が連携した6次産業化を小諸市の特産品の開発に併せて展開してまいりたいと考えております。そのために職員体制も強化いたしました。また、小水力発電など自然エネルギーの活用にも力を入れ、新たな産業と雇用の創出に結び付けたいと考えているところでございます。

重要事業を中心に私の政策の考え方の一端を申し上げてまいりましたが、人口減少、少子高齢化、加えて長引く景気低迷や昨年の東日本大震災による様々な分野での深刻な影響など、我が国はこれまでにない非常に厳しい状況に直面しております。そうした中であって、市民の皆様

に伝えられるよう、「明るく、自由で、活気あふれる、ふるさと小諸」のまちづくりを進進してまいりたいと考えております。どうか、皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

最後に、小諸市にとって、今年は少々趣きの変わった話題がございましたので、紹介させていただきます。

ご存じの方もあろうかと存じますが、今年の1月から3月にかけて、小諸を舞台にしたテレビアニメ「あの夏で待ってる（なつまち）」が放映されました。その影響で、日本各地から多くのファンの方々が小諸を訪れることとなりました。アニメのキャラクターをデザインした、しなの鉄道のラッピング列車の運行やファンによるドカン

ショ参加、ファンイベントの開催など、「なつまち」は一大ブームを呼び起こし、新たな小諸の魅力の一つとなりました。その影響は、今なお続いております。

皆様のおふろさと、そして私たちのまち小諸市は、浅間連峰が冬化粧を始め、日に日に寒さを増しておりますが、折をみて小諸にお出かけいただき、再生に向けて動き出している小諸市の姿をご高覧賜りたくお願いを申し上げます。

結びに、今後もふるさと小諸に温かいご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様の更なるご健勝、東京小諸会の限らない発展を心からご祈念申し上げます。平成24年度総会・懇親会にあたりましてのご挨拶とさせていただきます。

## 春の叙勲で市川副会長が受賞

長年に亘り、東京小諸会発展の為にご尽力されておられる市川源太郎副会長が、今年春の叙勲で「瑞宝双光章」を受章されました。会を代表して心からお祝い申し上げます。

市川副会長は、1956（昭和三十一年）に東京小諸会の生みの親であります小山邦太郎参議院議員の私設秘書になられて以来、四十年近い衆参議院の秘書活動でありました。受賞のご心境を次の様に述べておられます。

「私は小山議員の二、三期目の公設秘

書（国家公務員）をさせて頂きました。

そして、その後継者夏目忠雄議員（二期）、向山一人議員（二期）、更に井出正一衆議院議員（二期余）と都合、衆参四議員の公設秘書を三十有余年続けさせて頂き、井出厚生大臣就任時には、大臣秘書官を務めました。大変長い間、恵まれた有難い経験でしたが、それもこれも東京小諸会の皆様をはじめ、多くの方々との暖かいご支援ご協力があつてのことと、心から感謝して居ります。」

（小山洋之介 記）



# 箸と「創造の喜び」

国際箸学会 理事長 小宮山 栄

国際箸学会もおかげ様でこの11月で5年。我々は創造の喜びを味わってきた。

発足当初から掲げている「箸文化を学び、新しい箸文化を創り、箸を通じて世界中の人と共に喜ぶ」「出合の喜び 創造の喜び 達成の喜び」が少しずつであるが、進んでいると思う。

現在までに「〇〇と箸」の講演会をすでに10回、そして箸づくり教室、箸ピーゲーム、手長箸、箸のアルバム帖など。

箸づくり教室には「創造」のヒントになる宝の山。

ある女性は、祖父がなくなり、祖母があまりに落ち込んでいたので、元気になる言葉を書き書いてプレゼントしたという。

私の場合は大震災と日本人のことを思い、1本には明治天皇の詩「敷島の和心の雄々しさは 事ある時ぞ あらわれにける」と、もう1本には「被災者を慰めぬる両陛下 日本民族ありがたきかな」という自分で作った句を箸に書いた。これを箸の整理箱に入れ、後で見たり使ったりするのが楽しみである。

また箸に花火の美しいデザインをした人があり、皆が感動した。私と長い付き合い

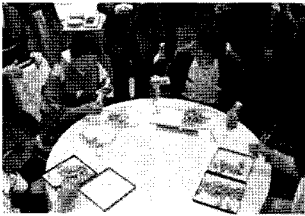
の彼にこれほどのデザインセンスがあるとは思わなかった。聞いてみると、これは数日前から考え続けていたという。考え続けて箸に言葉やデザインをし、うまくいった喜びは格別であったろうと思う。

国際箸学会は、箸使いのゲーム「箸りんびつく」を創造した。

「オリンピック」は足を中心としたゲームであり、「パラリンピック」は足の不自由な人のゲームである。

「箸りんびつく」の中に、殻つきピーナッツを箸でいかに早く移動させるかのゲーム「箸ピー」とチームで楽しむ「箸ピー駅伝」がある。このゲームを世界的ゲームにするには、皆でさらに創造的思考が必要と思う。またこのゲームに参加し、記録にチャレンジするには単なる個人差による反射神経だけの問題ではないことがわかった。

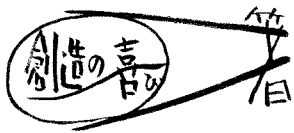
「どの長さで箸を持つのがよいか」「どのピーナッツから始めるのがよいか」「どんな練習がよいか」「どの精神状態に持つてゆくのがよいか」など、かなり創造的思考が必要なのである。



数学界のノーベル賞と言われたフィールズ賞を受賞した広中平祐氏の言葉「この世に生を受けて死ぬまでに、本当にやってみたいこと、と自分に問うと、それは創造すること、オリジナリティーを発揮することだと気づくようになる。」

「経済が『世界一』と言われるほどのレベルまでくると、人間の欲求も変わってくる。すでに在るものを改良するだけでは面白くなくなる。この世に生を受けて死ぬまでに、本当にやってみたいこと、と自分に問うと、それは創造すること、オリジナリティーを発揮することだと気づくようになる。これからはそういう若者たちが増え、社会がさらに活性化し、そこから新しい文化や生き方が生まれてくることに対する期待は大きい」と書いていた。

箸に関していろいろな発想から創造された活動や製品を、国際箸学会は楽しむ場にしてゆきたい。



## 小諸市の小学生達が 明治学院大で コーラスを披露

毎年十一月下旬に、港区

白金台の明治学院大で行われる、クリスマスツリー点灯式に、五年前から小諸の小学生達数十名が招かれて、コーラスを披露しています。

今年は十一月二十二日夕方四時半から、美南ガ丘小学校の児童が参加して、子供達の可愛い歌声が夕闇に点灯されるクリスマスツリーを彩ってくれます。見学は自由ですので、ご都合のよい方は是非ご参加ください。明治学院大の最寄り駅は、地下鉄南北線の白金高輪駅または白金台駅です。